

民間企業の改善に学べる立地

「今日も納得できる仕事が出来た」「私達の仕事が町民の役に立っている」「定時に帰って家族と過ごそう」。そんな気持ちで職員が笑顔でスキップして帰る職場を目指したい。そんな思いから本町の業務改善運動の愛称をSKIP運動とした。

13年度からスタートし、まだ4年目で試行錯誤しているところだが、自分たちのふりかえりの意味も込めて紹介することにする。

岩手県内陸南部に位置する金ケ崎町は人口1万6000人、トヨタ自動車東日本株式会社岩手工場など、自動車産業が中心の工業の町である。そんな本町の「押しポイント」は、トヨタ自動車の「カイゼン」をはじめとした、たくさんのお手本が近くにあることである。町内企業の方を講師に迎えての職員研修や、企業における具体的な改善事例や改善手法を学ぶことができる強みがある。

若手職員による推進体制

本町の改善運動は、町の行財政改革プランに位置づけられ、業務改善を職員の人材育成につなげたいという考えから、人事部門の所管でスタートした。また、取り組みの推進

から発表会の運営までを目的に若手・中堅職員を中心に、8人の委員による実行委員会を立ち上げた。

第1回の委員会では、「職員の不足がそもそもの課題」「改善運動のゴールが見えない」「余計な仕事が増えると思われる」などの不満が出てきた。しかし、最初に自由に意見



を言い合えたことで、「できない理由」ではなく、「できる可能性」を探してみようという一体感が生まれてきた。

自分達で目指す姿を決めた

第2回以降の委員会では約3か月議論を重ね、「自分達が納得できる目指すもの」を定めることができた。

それは、①業務の効率化を体感し、自分の仕事が「楽」になる、②チームで仕事ができる「楽」しい職場になる、③仕事がより良くなる事で、仕事にさらに「楽」しくなる、という三つの「楽」である。

この想いを込めて愛称を「SKIP運動」と決めた。

第2回 はじめの一步の「業務改善」

自治体改善マネジメント研究会(*)

松本浩和 岩手県金ケ崎町

初年度の活動は9月からスタートして、①各部署の課題を洗い出す「職場の課題総点検」、②課題の中から具体的な業務改善を実践、③実践事例発表会を開催、という流れで進めた。

また、「町内企業の取り組みを参考にできないか?」という委員の声

から、町内企業との意見交換会を開催するなど、各部署が取り組みやすい環境づくりに取り組んだ。

民間企業の改善をヒントに

意見交換会では、企業における改善の考え方を学び、例えば、「次の工程を引き継ぐ社員もお客様である」という話を聞き、各部署の改善事例にも「私のお客様」という項目を加えたりした。

また、商工部署の委員の「〇〇という企業は組織風土が良い」という声から、その企業の経営層を招き、経営理念や人材育成、改善活動を学び、本町の発表会でも事例発表をしていただくなど、刺激を受けている。

「改善は失敗しません。難しくても改善できる課題に、上司もチームとして取り組むから」。意見交換会のある企業の方の言葉である。SKIP運動の次の目標はチームで仕事ができる楽しい職場づくり。企業に学び、改善運動も改善していく。

【SKIP運動】
Smile
…自分、家族、職場に笑顔を
Knowledge
…知識の習得を
Innovation
…新たな価値の創造を
Pride
…仕事に自信を、地域に誇りを

*自治体で長年改善運動を推進してきた熟練職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で2013年に設立。自治体における改善運動が行政経営の目的や状況に応じて効果的かつ効率的に進められるよう、実践事例情報を収集、分析、ナレッジ化して情報発信、実践活用することを目的として活動している。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。共著に「地方が元気になる自治体経営を変える改善運動」(東洋経済新報社)。